



かわら版

No.1 「小中一貫教育」説明会の状況



桑名市教育委員会イメージ
キャラクター「くわっぼ」

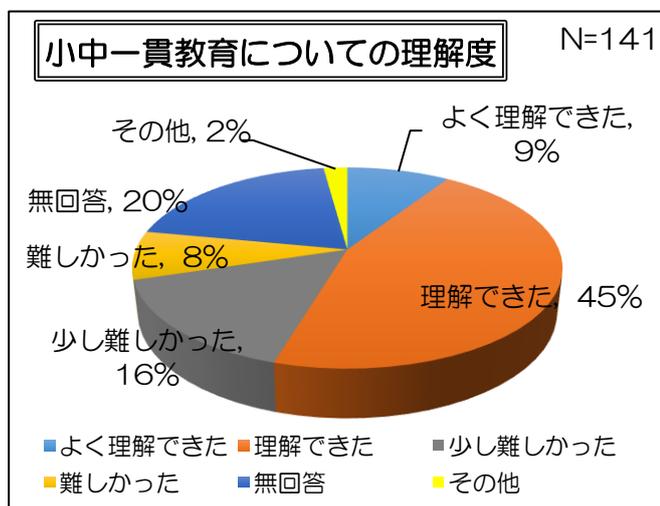
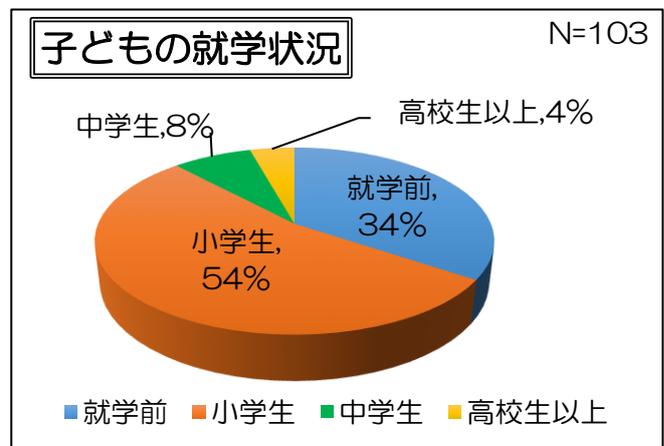
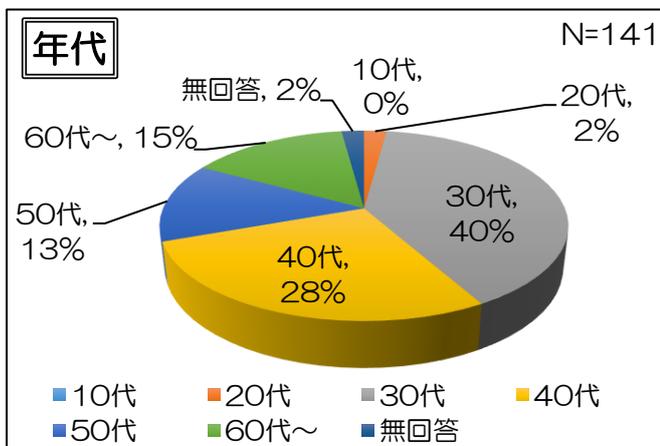
桑名市では、子どもたちにとって望ましい教育環境の整備を行っていくため、全市的に小中一貫教育を導入していこうと考えています。また、多度中学校区をモデル地区に指定し、今ある4小学校1中学校を再編し、施設一体型小中一貫校の建設を目指しています。

このモデル事業を進めるにあたり、小中一貫教育の理念や今後の方向性等について皆様にお伝えしていくことが大切だと考え、まずは、多度地区の保護者や就学前のお子様をお持ちの方を中心に、10月16日から29日にかけて計6回の説明会を行ってきました。

11月にも説明会を実施していますが、このたよりは、10月に行った説明会の報告と小中一貫教育、施設一体型小中一貫校等に関する情報を保護者や地域の皆様に幅広く知っていただくために発行するものです。今後も、随時発行し情報発信に努めてまいりたいと考えています。

小中一貫教育説明会について（10月16日～29日 計6回）

説明会には、のべ178名に参加いただき、内141名の方からアンケート調査に御回答をいただきました。



◎ 『年代』では、30代・40代の参加が多いことが分かります。

◎ 『子どもの就学状況』では、就学前や小学生の子どもを持つ子育て世代の参加が多いことが分かります。

◎ 『小中一貫教育についての理解度』は、「よく理解できた」・「理解できた」の合計は54%ありますが、「少し難しかった」・「難しかった」の合計は24%あります。今後も、小中一貫教育についてご理解いただくためにお知らせしていきます。

【説明会の質疑・応答の一部を紹介します】

Q. なぜ、小学校と中学校を一緒にする必要があるのですか。

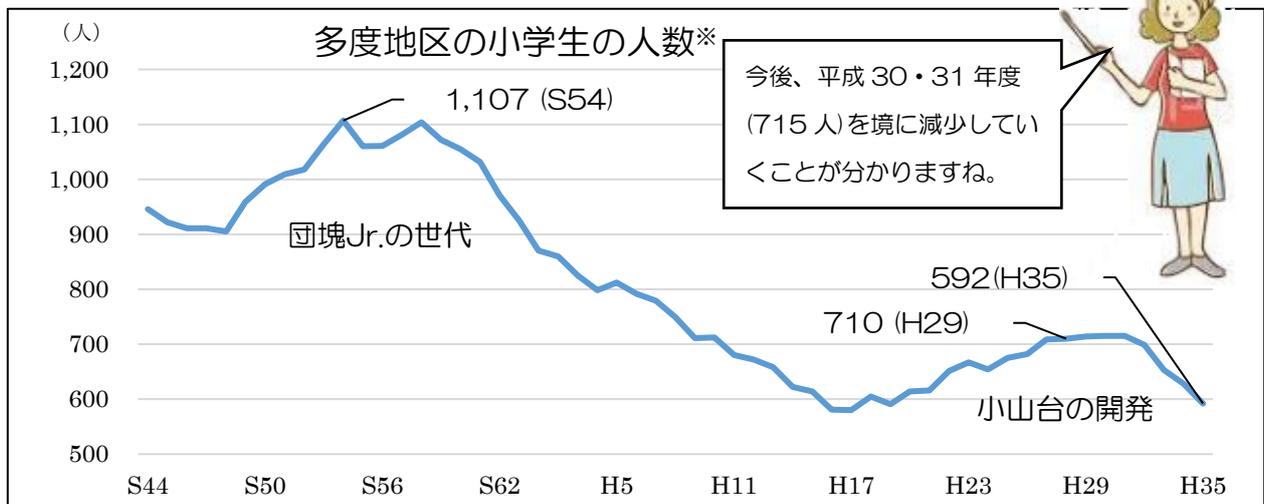
A. 小中一貫教育を行う施設は、大きく分けて、「一体型」「隣接型」「分離型」※がありますが、児童・生徒の交流、小学校と中学校の先生の移動時間等を考えると、一体型がもっとも効果があります。また、他市の先進事例では、中学生には小学生の模範となる姿や思いやりの姿勢が見られ、小学生には、中学生を身近な年長者として憧れや尊敬の念を持つ様子が見られています。



※小中一貫教育を行う施設形態は大きく3つあり、一体型（小中学校の施設が一体化）・隣接型（小中学校の施設が隣接）・分離型（小中学校の施設がそれぞれ離れている）があります。

Q. なぜ、モデル地区として多度地区が選ばれたのですか。

A. 桑名市では、全市的に小中一貫教育に取り組む予定です。また、施設一体型の小中一貫校の建設も順次進めていきたいと考えています。市内の中学校区を比較検討したところ、多度地区は、分散進学（小学生が2つの中学校に分かれて進学すること）がないことや、小学生の人数の減少により小規模化が進んでいることから選定しました。



※ 昭和44年度～平成29年度 各5月1日 平成30年度～平成35年度 平成29年4月住民基本台帳より

Q. 施設一体型小中一貫校の設置場所はどこですか。また、いつできるのですか？

A. 現時点では、未定です。今後、建設場所やどのような学校にするかについて、地域のみなさんのご意見をお聴きし、一緒に考えていく機会をもちます。

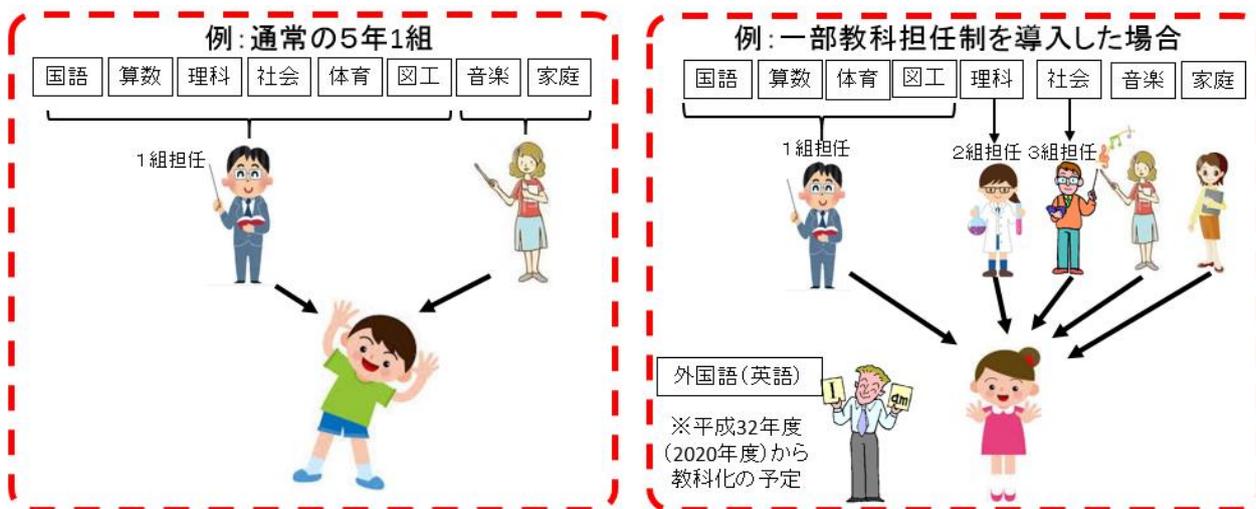


◎説明会のアンケート集計・記述内容及び市の見解については市ホームページに掲載します。また、桑名市教育委員会事務局（教育環境整備室）・多度町総合支所（地域振興課）に据え置きします。

【事務担当】桑名市教育委員会事務局 教育環境整備室 24-1354 まちづくり推進課 24-1462

《小学校高学年からの教科担任制》

小学5・6年生から一部教科担任制を取り入れることで、より多くの先生が子どもに接し、学習面や生活面でのより深い児童理解を目指しています。



《その他の取組》

- 乗り入れ授業*
 - 児童会・生徒会の設置及び充実
 - 家庭学習の習慣化
 - 等
- ※中学校の先生が小学校の授業の一部を教えること（逆もある）
 （例）運動会前に中学校の先生が走り方を教える。

子どもたちの夢と未来のために！

今後、桑名市においても現在行っている小中連携をさらに充実させ、子どもたちのより良い育ちを保障する取組の一つとして小中一貫教育（当面は、施設分離型・施設隣接型）を現在の中学校区毎に導入していきます。その中で、子どもたちに生きる力を身に付けさせるために、「縦系」に小学校と中学校の9年間の学びを「横系」に保護者や地域の方々のサポートをいただきながら、人づくりという黄金の布を織り込んでいきたいと思ひます。



小中一貫教育ってどんな教育

～全国の事例等から～

小中一貫教育ってどんな教育？

小中一貫教育は、小中学校の先生が、中学校卒業までにどのような子どもに成長してほしいかという共通の目標を持ち、義務教育9年間の教育を一緒に行うことです。



全国で拡がりつつある小中一貫教育

少子高齢化の進行・グローバル化・社会のつながりの希薄化等、教育を取り巻く社会の状況は大きく変化しています。そのような中、新しい時代に合った学力向上や小学校から中学校への滑らかな接続等を図り、これからの社会を担う人材を育成する必要があります。これらの課題に対して、小中一貫教育は有効な手立ての一つであると考え導入する自治体が年々増えています。

《小中一貫教育を推進している自治体数》（文部科学省の調査結果より）

211/1743

(H26.5)



239/1752

(H28.2)



249/1749

(H29.3)

小中一貫教育を推進している自治体数/市区町村（H28・H29は、一部事務組合を含む）

小中一貫教育はどのような学校で行うの？

小中一貫教育を推進する学校の施設形態は、一体型・隣接型・分離型の3つの基本形があります。

《一体型》



小中学校の施設が一体化

《隣接型》



小学校

中学校

小中学校の施設が隣接

《分離型》



中学校

小学校

小学校

小中学校の施設がそれぞれ離れている

小中一貫教育の取組事例

小中一貫教育を推進する自治体の取組例は様々です。一部ではありますが事例を紹介します。

《異学年交流》

様々な学年の児童生徒が交流することで、自尊感情を高めたり、上級生への憧憬の念、下級生への慈愛の念を高めたりすることを目指しています。

《異学年交流》



←本の読み聞かせ等、様々な交流を行います。

中学生と小学生が→合同でキャンプに行くこともあります。

《合同行事》

